

能登限定

いしかわ百万石文化祭2023七尾市プライベート
仲代達矢役者七十周年記念ロングラン公演

無名塾 いのちぼうにふろう物語

能登でしか
味わえない
感動がある



七尾が誇る演劇文化を全国へ

去る5月30日、今秋9月4日から10月10日にかけて能登演劇堂で上演する『いのちぼうにふろう物語』の記者発表が行われ、茶谷市長をはじめ無名塾の仲代達矢さん、小宮久美子さん、演出家の林清人さんが公演に寄せる思いなどを語りました。

『いのちぼうにふろう物語』は、山本周五郎さん原作、仲代さんの亡き妻、宮崎恭子(ペンネーム・ム隆巴)さんが脚本を手掛けた時代劇で、能登演劇堂では3回目の上演。来年、県内で開催される「いしかわ百万石文化祭2023」にむけた市独自のプライベートで、市が誇る演劇文化を全国へ発信することが目的です。

茶谷市長は「市民参加型のすばらしい演劇になる。演劇のまちとして全国、海外へ発信したい」と意気込みました。

仲代さんは能登演劇堂での初演を振り返り「50人も町民エキストラが舞台奥の扉から登場した世界でも類を見ない公演。そのすばらしさを伝えたい」と話し、「七尾市は第二のふるさと。役者70周年の節目に妻と一緒に作り上げた作品をここで再演できることを幸せに思う」と胸の内を明かしました。



あらすじ
密貿易の拠点、深川安楽亭にたむろするならず者たちが、見も知らぬ他人の恋を成就させるために自らの命を投げ出していく物語。

能登演劇堂ならではの演出

能登演劇堂は、仲代さんの監修のもと、平成7年に完成しました。舞台奥の扉が開き、屋外まで舞台となる日本唯一の劇場。仲代さんは「日本一の芝居小屋」と胸を張ります。

『いのちぼうにふろう物語』の終盤、舞台奥の扉が開き、御用提灯を手にしたエキストラが一気に押し寄せる迫力の演出が用意されています。プロの役者とエキストラが一体となって繰り広げる大捕り物のシーンは感動を呼び、観客にとっても、参加したエキストラにとっても忘れられない舞台です。



エキストラ体験者
インタビュー



中島町浜田
白山利弘さん

平成9年の初演時、町から壮年団に協力依頼があつて参加しました。初めはただ参加していましたが、役者の皆さんとの交流会をきっかけに距離が縮まり、エキストラと役者の皆さんとの連帯感が生まれました。客席から芝居を見た時は、あらためて「すごいことをしている」と実感しました。普段顔を合わせない団員と毎日のように集まって話をしたり、役者の皆さんと仲良くなれたり、公演が終わる頃にはさみしいと思うほど、楽しかったです。皆さんにも味わってほしいです。



公演情報

『いのちぼうにふろう物語』

■期間 9月4日(日)〜10月10日(月・祝)※全30回公演

■開演時間 9月公演は16時30分、10月公演は16時

■出演 仲代達矢ほか無名塾

■料金 (全席指定・税込)
※当日500円増

一般 8,500円
高校生以下 5,000円
障がい者割引 7,000円
(当日、障害者手帳を提示ください)

特別割引 6月に町会から配布されたチラシ裏の「町会連合会特別申込書」で申し込むと、500円引きで購入できます。

エキストラ募集

■募集要項

役柄 外舞台での捕り方役
募集人数 約30人
応募資格 公演期間中20回以上参加できる健康な人
対象 高校生以上(男女問わず)

■応募方法

申込書に必要事項を記入し郵送またはFAXで提出



詳細はこちらから

■募集期限 7月31日(日)



エキストラの衣装を紹介する
無名塾 島田 仁さん

問 能登演劇堂

☎ 6612323
FAX 6612326
〒9291222
七尾市中島町中島上部9番地

無名塾
主宰

仲代達矢さん (89歳)
インタビュー



能登は第二のふるさと

昭和58年に無名塾の演出家である林の案内で、中島町を訪れた時に、すばらしい自然と町の人たちの温かい人情に触れて感動しました。「ここで芝居の稽古ができたら」とつぶやいたことをきっかけに、無名塾の合宿をさせてもらうことになりました。それから能登演劇堂という日本一の劇場を建ていただき、毎年のように足を運んでいます。私にとっては第二のふるさと。ここで芝居ができる幸せをかみしめています。

市民と作り上げる舞台

『いのちぼうにふろう物語』は、能登演劇堂では3回目の上演になります。初演では50人もの捕り方役の町民エキストラが舞台奥の扉から登場して、大捕り物を繰り広げるといって、世界に類まれなこと

足腰が利く限り 体力が続く限り 声が出る限り

を成し遂げました。平成16年の再演時には、台風の日がありました。風が吹き荒れる中、エキストラの皆さんはいつもと変わりなく安楽亭を取り囲んでくれました。私も屋根の上からその姿を見ていて、思わず感極まるものがあったせいか、「見ろよ、嵐の中の祭りだぜ」と、アドリブを吐いていました。エキストラ体験は何かしら皆さんの人生を潤してくれるものではないでしょうか。

演劇は人の心を豊かにする

演劇は人の心を豊かにするものです。それは演劇だけの特権ではなく、あらゆる文化・芸術に共通することです。そんなのんびりしたことなど考えていられないと思うかもしれませんが、しかし、そういった考えにこそ、心に潤いを持たせる文化が必要なのです。私は人の心が豊かになれば、いずれ戦争が無くなるものと考えています。市民の皆さん一人一人がそのことに思い至っていただけたら幸いです。

70年芝居をやってきて、はや90歳です。あとできる芝居は、一本か二本といったところでしょう。それでも最後まで何とか役者人生を全うすることができればと、ただそれだけを願っています。今は亡き宮崎恭子が残してくれた無名塾という財産と共に、健康に感謝し、足腰が利く限り、体力が続く限り、声が出る限り、もう少し頑張りたいと思います。



亡き妻と紡いできた
「いのちぼうにふろう物語」

この物語の原作は、山本周五郎先生の『深川安楽亭』で、『いのちぼうにふろう物語』の題名を考えたのは亡き女房、宮崎恭子です。

昭和46年に映画、昭和57年にテレビそして、亡くなる直前の平成9年に舞台と、3つのジャンルで書き分けたものです。それだけ愛着を持っていたのでしよう。私も同様です。「人間というものへの愛おしさ」がふつつつと湧いてくる作品です。

劇中で私の演じる幾造が「あんなどうしようもないやつらでも、命を投げ出してまで他人を救おうとする」とつぶやきます。そうした「人間への信頼感」や「人間への愛おしさ」、「人間が生きるとはどういうことか」を、この作品を通じて感じてほしいと思います。役者はいろんな人物になり、人間とは何者か、どのような生き方をするのかを訴える商売だと思っています。役者70周年の節目に、二人で紡いで来た作品が上演できるのは、うれしい限りです。



前回公演より

七尾市×無名塾のあゆみ

- 昭和58年 仲代達矢・宮崎恭子夫妻 能登旅行
- 昭和60年 無名塾能登中島合宿始まる
- 平成4年 演劇専用ホール建設構想 仲代氏に監修を依頼
- 平成7年 能登演劇堂オープン
こけら落とし公演「ソルネス」上演
仲代氏「中島町名誉町民」
能登演劇堂名誉館長
- 平成9年 第1回能登演劇堂ロングラン公演「いのちぼうにふろう物語」
- 平成13年 第2回能登演劇堂ロングラン公演「ワインザーの陽気な女房たち」
- 平成16年 第3回能登演劇堂ロングラン公演「いのちぼうにふろう物語」
- 平成20年 仲代氏「七尾市名誉市民」
- 平成21年 第4回能登演劇堂ロングラン公演「マクベス」能登限定公演
- 平成25年 第5回能登演劇堂ロングラン公演「ロミオとジュリエット」
- 平成27年 北陸新幹線金沢開業記念「おれたちは天使じゃない」
- 平成29年 第6回能登演劇堂ロングラン公演「肝っ玉おっ母と子供たち」
- 令和4年 いしかわ百万石文化祭2023七尾市プレイベント 仲代達矢役者七周年記念ロングラン公演「いのちぼうにふろう物語」能登限定公演